

自然教室だより

『矢田丘陵自然観察会』実施報告

倉田 晃

秋晴れの9月19日 10人の参加者が集い、御宮知講師の指導のもと楽しい観察会をしました。

大和民俗公園をスタートしてすぐキバナコスモスがあり、花の仕組みやタネの姿など講師の話聞きながらじっくり観察しました。普段からよく目にする花ですが、へえ〜とびっくりするような内容でした。

それからが大変です。こちらの花、あちらの花と尋ね歩き、なんと100種類以上の花を眺めて歩き、メモを取るが大変でした。私にはアメリカミズキンバイ、アキノノゲシ、ツリガネニンジン、サワヒヨドリ、ネコハギ、ゲンノショウコ、ヒガンバナなどが印象に残りました。



参加者は殆どが素人レベルですが、講師は花を実際に分解してその特徴を解説したり、いくつかの似た種類を並べて比較したり、体系上の特徴を実例で分かりやすく解説したりと、さまざまな工夫をして私たちの理解促進を図ってくれました。

また、質問大歓迎ということで、参加者からも様々な質問が投げかけられ、それに対して分かりやすく丁寧な回答をいただくことができ、参加者としては満足を覚えました。

当日は植物の観察だけではなく、参加者それぞれが小さいころから親しんだいろいろな自然遊びを紹介しあい、童心に帰って楽しみました。ヒガンバナの提灯、蚊帳ツリ、ネコジャラシのにぎにぎ、クズの葉のポン、笹船や笹飴作りなどです。会員の皆さんもならやまでしてみませんか。

参加者一同十分満足できた楽しい観察会で、できることならば毎年継続して実施できるとよいなと思いました。

私のふるさと

ふるさと遠く

青木 幸子

私のふるさとは「読めない！書けない！どこにある？」で有名な？？宍粟市です。「日本の珍地名」で難読・誤読地名番付の「西の横綱」にされました。因みに東の横綱は千葉県そうさの匝瑳市だそうです。「あなぐり」とか「ししぐり」と読まれたり、漢字表記でも「穴栗」「宍栗」と間違われたりさんざんです。宍粟の名称は市の中心部に残っている地名、鹿沢しかざわを昔は「ししさわ」と読んだことに由来するとのこと。「ししさわ→ししあわ→しさわ→しそう」と変化し「ししあわ」に「宍栗」の漢字が当てられたとのこと。

場所は兵庫県の中西部、姫路市から約30kmに位置し、西は岡山県、北は鳥取県に接しています。2005年に宍粟郡の4町が合併して市になりましたが、面積658.54km²に対して総人口36,568人(2017.5月)大部分が山地のため人口密度は低く少子高齢化の過疎地です。その4町の中の「千種町」がわがふるさとです。

奈良時代に編纂された播磨国風土記に「敷草村、敷草為神座故曰敷草」と記され、古くは神々が腰を下ろす場を意味する「敷草村」と呼ばれていました。中学校校歌に「日名倉ひなくらは天にほほえみ敷草は地にささやきて・・・」とあり今も後輩の中学生たちが歌っています。

千種町岩野辺に、たたらかなやごのかみの神様である「金屋子神」が天から舞い降りたという伝説が残っています。古来より千種鉄の生産地として有名で、今もたたら製鉄所跡が残っています。

山奥の小さな田舎町にも歴史はありますね。



荒尾鉄山跡



神が舞い降りたという所

